

阿部女郎の屋部の坂の歌一首

二六九番

人見ずは 我が袖もちて 隠さむを 焼けつつか
あらむ 着ずて来にけり

高市連黒人の羈旅の歌八首

二七〇番

旅にして もの恋しきに 山下の 赤のそほ舟
沖を漕ぐ見ゆ

二七一番

桜田へ 鶴鳴き渡る 年魚市潟 潮干にけらし
鶴鳴き渡る